

被災地出身医師ら派遣を

優先制度づくり訴え

東日本巨大地震の被災地で活動している国際医療NGO「AMD A(アムダ)」の菅波代表が21日、一時、岡山に帰り、岡山市北区のアムダ本部で記者会見をした。菅波代表は活動の様子を写真で紹介しながら、「津波は広範囲に及び、被災者から何もかも奪った」と悲惨さを語った。

菅波代表は13日から8日間、活動。15日からは、被害が甚大だった岩手県釜石市や同県大槌町で活動してきた。菅波代表は「津波で、ほとんど建物が残って

いない状態だった」とパソコンで現地の写真を見せ、「活動拠点を探すのも困難だった」と話した。また、避難所では電気、水などのライフラインが絶たれ、トイレなど衛生面での問題も発生。高齢者の中にはトイレに行かないように水分の補給を我慢し、脱水症状になった人もいたという。

今回の活動では地元出身の医療従事者の重要性を改めて認識。アムダチームのメンバーに地元出身の医療従事者がいたため、避難所でアムダへの不信感がなく



被災地の現状を記者会見で話す菅波代表（岡山市内で）

AMD Aに協力

高松農高生募金

県立高松農高（岡山市北区高松原古才）の生徒会役員9人は21日、JR岡山駅前で行われた国際医療NGO「AMD A(アムダ)」の街頭募金活動に参加した。浄財は東日本巨大地震で活動するアムダの活動費

地震関係情報

「地域活性化協働プログラム」締結延期 県と「日本マイクロソフト」(東京都)が23日行う予定だった「地域活性化協働プログラム」の締結が、延期になった。両者が東日本巨大地震の被災地支援などに専念するため。プログラムは県内の高齢者や障害者らにIT講習会を開催するなどして人材育成を図るもの。

県が中小企業向け相談窓口 県は、東日本巨大地震の影響に関する県内の中小企業向け相談窓口を22日に開設する。平日午前8時30分～午後5時15分、県経営支援課(086・226・7354)と県中小企業支援センター(086・286・9626)が対応する。

県経営支援課によると、18日現在、県内の中小企業に大きな問題は見られず相談もないが、今後、東北地方の企業との取引への影響が懸念されるため、窓口を設置することにした。相談によって問題点を聞き取り、今後の対応にも生かす。

吉備国際大・九州保健福祉大が特別入試 高梁市の順正学園は、運営する吉備国際大(同市)と九州保健福祉大(宮崎県延岡市)で、地震の影響で受験機会を失った受験生を対象に、特別入試を行う。受験料は無料で、入学金、授業料の免除措置

を取る。日程、場所などは未定だが、受験生の希望に応じて実施する場合もある。願書締め切りは4月8日が目安だが、事情を勘案する。問い合わせは、同学園入試広報室(0866・22・7178)。要項は、両大学のホームページでも見られる。

朝日学園、被災生徒受け入れ 朝日学園(鳥海十児学園長)は、運営する中高一貫校・朝日塾中等教育学校(岡山市北区御津紙工)などに、東日本巨大地震の被災者を受け入れ、学費免除などの支援を行う。

学費、教科書代、制服、寮費など学校生活にかかわる費用の全額免除が3人、半額免除が3人、入学金(15万円)、入寮費(5万円)免除が計14人。願書や成績証明書で選考する。同学校は難関大学合格を目指しているため、成績証明書がない場合は学力テストを実施して受け入れの可否を決める。また、運営する幼稚園、小学校でも編入学での受け入れ準備をしているという。

きょうから清心女子高生ら中庄駅で募金 清心女子高(倉敷市二子)の生徒会役員を中心とした生徒約10人が、22～24日の午後2～4時、JR中庄駅の改札口付近で募金活動を行う。生徒たちは14、15、17日に同駅で活動し、集まった21万5684円を日本赤十字社県支部に届けている。

なり、活動がしやすくなったという。菅波代表は「地元出身の医療従事者が優先的に被災地に入る制度の構築を」と訴えていた。菅波代表は25日、再び被災地に入る。

国際貢献大学校 会津若松へ物資

要請受け搬送

東日本巨大地震の被災地に救援物資を搬送している公設国際貢献大学校(新見市)は21日、福島県会津若松市からの要請を受け、

「一学校に届けられた救援物資を整理し、最も必要とされている物から届けてい」と話している。

同大学校では、引き続き救援物資を募っている。被災地で特に不足しているのは、乳幼児用の粉ミルク(アレルギー対応のものも含む)、哺乳瓶、おむつ、お

直後から「自分たちができることはないか」と検討。岡山市内に本部を置くアムダに募金活動への参加を申し出ている。

た。同大学校の物資搬送は5回目。同大学校は地震発生翌日から、4回にわたって職員らが運転手となって同市と福島市、宮城県川崎町に救援物資を搬送。今回で被災地入りは3回目となる丸山尚人・同校救援室長(36)は

しりふき、レトルトの粥、雨がっばなどだという。

に充てられる。生徒らは募金箱を持ち、「協力をお願いします」と声を張り上げて通行人に呼びかけ。足を止め、募金箱に寄付をする通行人の姿がみられた。2年の森屋元気さん(17)は「自分たちができる形で協力をできた。もっと支援の輪を広げたい」と話していた。同校生徒会は、地震発生

若松市からの要請を受け、赤ちゃん用おむつ、粉ミルク、マスク、トイレットペーパーなどをトラックに積み込み、同市災害対策本部に向けて出発し

は、乳幼児用の粉ミルク(アレルギー対応のものも含む)、哺乳瓶、おむつ、お

は、乳幼児用の粉ミルク(アレルギー対応のものも含む)、哺乳瓶、おむつ、お